人と自然　Humans and Nature, No. 12, 73－80, December 2001

原著論文

兵庫県三田市における住民グループ活動の実態把握に関する一考察

藤　本　真　里*・中　瀬　　勲*

Study on the Actual Conditions of Voluntary Associations in Sanda City, Hyogo Prefecture.

Mari FUJIMOTO*・Isao NAKASE*

Abstract

In Sanda City, Hyogo Prefecture, voluntary associations are active and take deep interest in Machidukuri (Community Building). The study is based on a survey of 23 voluntary associations in Sanda City. We surveyed associations about their activities, views, management, and relations with community councils. As a result, we can classify the associations into four types. They have differences in motivation of the inauguration, and relations with community councils. The first type is established by a public association. The second type is the cultural class. The third type is the circle related with the community council. The last type is the circle of interest. In some types, we found the factors of the participation in the town planning. It is remarkable that the motivation of a public association, and a voluntary association in the other area is effective in the first type.

Key words：Machidukuri (Community Building), voluntary association, community council

は　じ　め　に

特定非営利活動促進法が1998年12月に施行され，現在，全国で3,000以上のＮＰＯ法人が発足している．また，法人格のない任意のグループも多く存在し、住民活動は活況を呈している．これらの多くは、自治会等の地縁型組織とは別の独立した組織で、生き方や価値観を共有する、いわばテーマ・コミュニティともいえるものである。本論ではこのようなグループを住民グループと呼んでいる。

住民グループがどのように位置づけられているかを都市社会学分野でみてみると，奥田（1993）は住民グループの活動が地域の自治システムに結びつくことの重要性，平田（1993）は，一定条件の住民グループは住民による地域共同管理の事業の一端を担う可能性を指摘しており，越智（1990）は住民グループの一部をボランタリー・アソシエーションと定義し，町内会にも影響を与える重要な役割をもつとしている．住民グループと地域との関わりが，その地域の活性化につながることを示している．このような現状認識を踏まえ，住民グループ活動の成果がまちづくりにも影響を与え，地域が活性化する方向へつながるように公的支援を検討することは重要な課題といえる．

藤本・中瀬（2000）は，兵庫県丹波地域で住民グループ活動の実態を把握し，公的支援のあり方を提案した．この提案は、田園環境を残しながら都市化のインパクトを受けつつある地域で、主に自治会が地域づくりを担っている地域の結果である．地域性や地域づくりの担い手が異なれば，自ずと公的支援のあり方も異なることが予測できる．そこで，本研究では，計画的に開発されたニュータウンと農村部が混在した地域で，以下にあげるような住民グループの動きがある兵庫県三田市をケースとした．

*兵庫県立人と自然の博物館　自然・環境マネジメント研究部　〒669-1546　兵庫県三田市弥生が丘6丁目　Division of Environmental Management, Museum of Nature and Human Activities, Hyogo; Yayoigaoka 6, Sanda, 669-1546 Japan
兼任：姫路工業大学自然・環境科学研究所　〒669-1546　三田市弥生が丘6丁目　Institute of Natural and Environmental Sciences, HIT; Yayoigaoka 6, Sanda, 669-1546 Japan

1. まちかど夢イベント

本市では，1998年に市制40周年記念事業実行委員会が三田市，兵庫県，住民代表などにより設立され，その事業のひとつとして,「まちかど夢イベント」が行われた．このイベントは，住民が全てを企画・運営し，実行委員会が市内全域への広報と最高10万円を補助するというものであった．最終的に78の個人やグループからイベントの応募があり，住民グループのパワーの大きさを示すものと思われた．イベントには北部に広がる農村部を巡るツアーを企画するグループや，自らの特技を披露するグループなど多彩であった．イベント後に実施したアンケートで,「イベント前後のまちづくりに対する意識の変化」について問うた．結果は,「もともとまちづくりに関わりたいと考えている」は約5割（回収票：48）を占め,「イベント後関わりたいと思うようになった」を含めると，約7割に及び，まちづくり意識の高いグループが集まったといえる．

2. さんだ・まちづくり広場

「まちかど夢イベント」をはじめとする市制40周年事業における住民参加型イベントの盛り上がりを次へ活かそうと有志が三田市の支援を受けながら「さんだ・まちづくり広場」を1999年４月に立ち上げた．具体には，有志が運営委員会を組織し，交流の場やまちづくり支援体制を検討するための公開討論会を「さんだ・まちづくり広場」として企画・開催し，現在に至っている．

3. 三田市第３次総合計画への住民参加

三田市では，2000年度から第３次総合計画策定に取り組んいる．その過程で住民参加の場を積極的に取りいれており，公募によって集まった住民で組織した「21世紀さんだ市民フォーラム実行委員」が市民提案書を策定し，市に提出した．それに先だって，市は，計画(案)検討のための基礎的な資料を作成するため，8グループに対し，インタビューを行っている．

これまでに述べてきたグループは，兵庫県丹波地域で藤本ほか（1999）が実態を把握したグループの類型化にあてはめてみると，4類型のうちの１類型で，テーマ・コミュニティに基盤をおいた住民自発的な「サークル型」に属するものである．

本研究では，兵庫県丹波地域における実態把握の手法を用い，住民グループの発足のきっかけ，活動内容，活動展望等の実態を把握しつつ，住民グループと地域との関わりに注目し，どのようなグループがどういう要因によって地域に関わっているかを明らかにした上で，公的支援のあり方を提案することを目的とした．地域との関わりは，実際の地縁組織との関係だけではなく，活動の内容・展望における地域に関わろうとする意向も含んで考えるものとした．

表１　調査対象一覧

NO	グループ名	設立年	会員数(人)
1	あいの病院	1968	30
2	あみゅーず倶楽部	1997	18
3	アンサンブル大地のジャガイモ	1998	20
4	おはなし集団だっこ座	1977	16
5	三田親と子の劇場	1978	512
6	KID'S FUNK	1996	90
7	三田きりえフォーラム	1995	230
8	小寺煎茶ファミリー	1970	25
9	里山遊び研究会	1997	50
10	さんだCAP	1997	9
11	サンダ　バード	1997	13
12	三田失語症の会「グループ・しゃべろーよ」	1995	18
13	社交ダンス・ガーネット	1994	36
14	三田女声コーラス	1973	33
15	せせらぎの会	2000	20
16	三田里山どんぐりくらぶ	1997	53
17	日本キノコ協会	1992	450
18	NPO法人人と自然の会	1999	101
19	平谷川に蛍を戻す会	1992	40
20	ふれあいセミナー	1987	7
21	ポップコーンくらぶ	1997	30
22	緑の環境クラブ	1997	200
23	楽描きの会	1995	15

調査対象と調査方法

1. 調査対象

三田市は，兵庫県の南東部に位置し，人口110,395人（1999年10月）で，1981年から入居がはじまった「北接三田ニュータウン」開発により，1987年から10年間連続して人口増加率全国一であった．人口の約半分はニュータウン住民であり，ニュータウン地域と既成市街地域，丹波地域に北接する農村地域が共存するまちである．調査対象は，「はじめに」で述べたグループとした．具体には，自治会ではなく，現在活動を継続しているグループで,「まちかど夢イベント」後のアンケートで，まちづくり意向ありと答えた20グループ,「さんだ・まちづくり広場」に参加している7グループ，グループインタビューに応募した6グループを選んだ．これらにはだぶっているグループもあり，結果的に調査対象は23グループとなった．「まちかど夢イベント」,「さんだ・まちづくり広場」，グループインタビューといった動きは，三田市がまちづくりへの住民参加を進めているなかで関わった事業であり、これらの動向に呼応しているグループは，まちづくりの展開や公的な支援の可能性を検討する対象として有意義である．

2. 調査方法

調査は，以下の項目について住民グループの代表に直

接対面してヒアリングした．調査期間は2000年9月11日から10月28日であった．

（ヒアリング項目）

① 基礎データ（設立年，活動拠点，会員数）
② 活動を始めたきっかけ
③ 活動内容
④ 運営（資金調達方法，関係団体との連携方法，リーダーの属性，事務局能力）
⑤ 課題と抱負

調査対象とした住民グループを表1に示す．

調　査　結　果

1. グループ発足のきっかけ，グループと地域との関わりからみた類型化

発足のきっかけ，グループと地域との関わりをみることによって調査対象グループを類型化した．類型化のプロセスを図1に示す．

行政，病院，博物館等の機関からの動機付けがあったグループを外部要因発足型とした．関連機関の動機付けなしに自発的に発足したグループの内，ある種の専門講師を中心に集まったグループを教室型とし，同志で集まったグループとは別にした．同志で集まったグループには積極的に地域に関わろうとするグループとそうでないグループに分けられた．そこで，前者を地域連携サークル型，後者をテーマ追求サークル型とした．

以上のように，グループ発足のきっかけ，グループと地域との関わりをみることで４つに類型化することができた．類型毎の一覧を表2に示した．（「事務局機能」欄の＜＞は事務局所在地，｛　｝は資金調達方法を示している．）

2. 類型別に見た活動の内容・展望と地縁組織，他関連機関との交流

表3～6は，活動の内容・展望，地縁組織，他関連機関との交流について類型毎にまとめたものである．これらの表を参照しながら，それぞれの類型毎に調査結果を以下に示す．

（1）外部要因発足型

表3に示すように，外部要因発足型には9グループが該当する．これらのグループは関連機関の動機付けがあって発足したグループである．グループ11,16,20,22は市の事業から派生して発足，グループ1,12,18は病院や博物館といった公的機関のバックアップによって発足，グループ5は他地域にある親子劇場という同系列の住民グループにならって発足，グループ10は私的養成講座を受けて発足したものである．発足のきっかけは，関連機関にあったものの事務局機能をみると，グループ16以外はメンバーで分担しており，資金調達もグループ1以外は会費や自ら獲得した補助金，委託費で賄うなど組織運営面で自立性が高い．特にグループ5,18は地域ごとのブロック，養成講座同期生といった数人のグループを基本単位として，それらを束ねる形で体系的な組織を形成し，運営システムを確立している．これは同系列のグループや博物館によるノウハウ提供から生まれている．

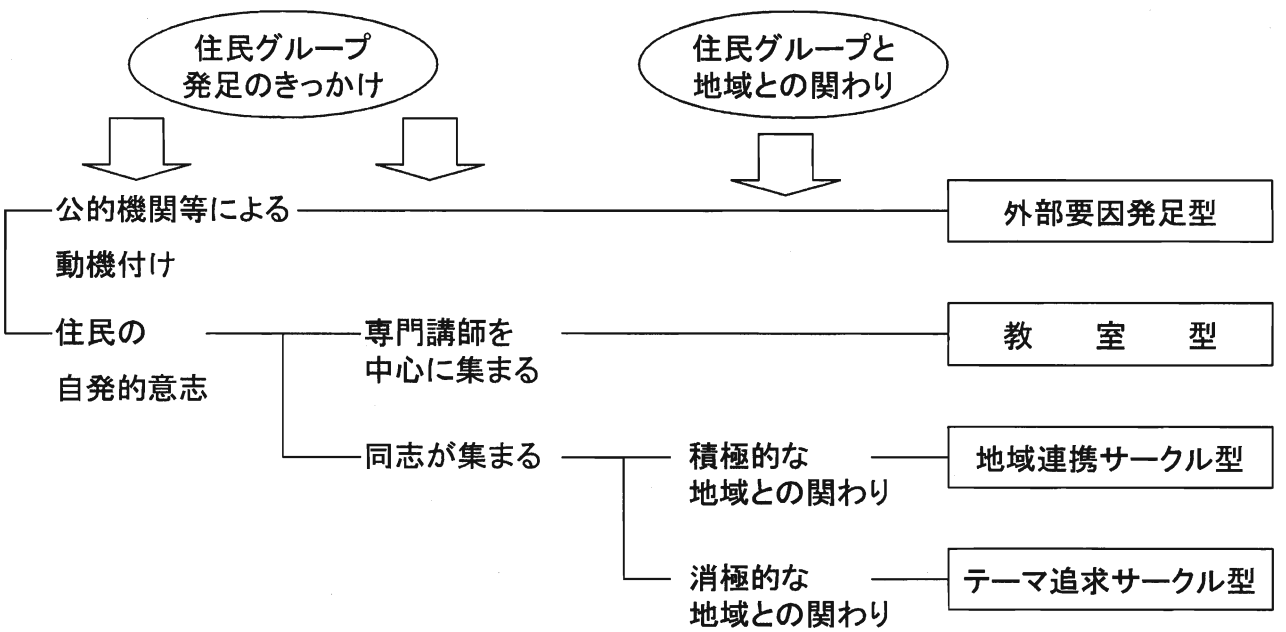

図1　住民グループの類型化プロセス

表2　グループ発足のきっかけ，地域との関わりから見た類型化

NO	発足したきっかけ	事務局機能	地縁組織との関係	
1	1997年老人保健施設ができた時に老人性痴呆症に対する理解を得ることを目的に地域との交流イベントをはじめた。	＜病院＞資料づくり、会議運営は中心メンバーの中の調整役が中心になってメンバーで分担｛病院予算｝	イベント実施時に地元自治会や婦人会の協力を得る。交流を積極的にしたい。	外部要因発足型
5	親子劇場は福岡が発祥の地で、三田でも生の舞台芸術を見せて子供の創造力を形成しようと願う母親達のよびかけで発足	＜独立事務所、週3日有給スタッフ駐在＞資料づくり、会議運営は組織内で体系的に対応｛会費｝	自治会関係のメンバーを通じ、自治会主催のイベントに参加。逆に地域の人的資源を活用してグループ内イベントを実施	
10	子供があらゆる暴力から自分の身を守るための人権教育プログラムの専門家養成講座修了生を中心に三田で発足	＜代表宅＞資料づくり、会議運営はメンバー全員で分担｛会費、講師料｝	子供会や育児サークル等からの依頼。家庭、学校、地域の連携が重要で、子供に関わる組織と関わりを持ちたい。	
11	三田市広報課が所管する市内諸施設の案内ボランティアの中で、新人ガイドの交流会をしようと呼びかけて発足	＜代表宅＞資料づくりは主に代表で、会議運営はメンバー全員で分担｛会費｝	チャンスがあれば、自治会等との共同イベントを行いたい。ツアー企画にあたって、自治会等との交流が生まれた。	
12	事務局長のご主人が発症。前住地の言語訓練先で同じ障害者のグループをつくってもらったのがきっかけで、三田でも発足	＜代表宅＞通信は副会長やその家族、会議運営はメンバー全員で分担｛会費、出店収入、出展参加費｝	イベントに連合婦人会等が参加。民生委員に活動を理解してもらい、同様の障害を持つ人に呼びかけたい。	
16	三田市農政課が「里山管理のためのセミナー」として公募して発足。	＜三田市農政課＞資料づくりは市役所、会議運営はメンバー全員で分担｛会費、代表獲得の補助金｝	地元の祭りに企画段階から参加。交流は深まっている。	
18	1994年から登録開始した博物館ボランティアグループでNPO法人に移行しようと、館のバックアップでNPOとして発足	＜事務局長宅＞事務局で資料づくり分担、会議運営は理事会、体系的に対応｛会費、出店収入、委託費｝	子供会のイベントを企画・運営するが、役員交代で継続できていない。PTAと協力しで総合学習支援を行いたい。	
20	市家庭教育学級の卒業生で、子育てを通して女性の人格向上をめざして発足	＜代表宅＞資料づくり、会議運営は代表｛会費｝	なし	
22	市地域コミュニティ課が所管する市民会議のメンバーで自らの提案をできることから実践し、三田の里山を守ろうと発足	＜事務局長宅＞資料づくり、会議運営は中心メンバーで分担｛会費、出店収入、メンバー獲得の補助金｝	PTA等地縁組織の依頼を受ける。地域に密着したメンバーがおり、関係が生まれる。今後、総合学習にも貢献したい。	
6	代表は趣味でダンスをしており、友人との世間話から子ども達のグループでプロのインストラクターに教えてもらおうと発足	＜代表宅＞資料づくりは中心メンバーで分担、会議はなし｛レッスン料、発表会参加費｝	インストラクターのつながりで自治会主催の夏祭りに参加。観客も出演者も楽しめて良かったが負担が重かった。	教室型
7	事務局長が父親の切り絵教室を受け継ぎ、「全国きりえ展」をきっかけに、複数のｸﾞﾙｰﾌﾟをまとめてフォーラム発足	＜なし＞資料づくり、会議運営は中心メンバーのグループ｛レッスン料、イベント毎に会計処理｝	老人会や農協婦人部などから講師依頼。老人連合会の年末行事協力	
8	永沢寺の花菖蒲園でお茶会の依頼があったことがきっかけで、教室を開く。	＜代表宅＞資料づくり、会議運営は代表が中心になってイベント毎に分担｛レッスン料、茶会参加費｝	老人会からの出演依頼	
13	講師が、三田に引っ越してきて、趣味を通じて仲間が増えればと教え始めたことがきっかけで発足。	＜代表宅＞資料づくり、会議運営は、代表が中心｛レッスン料、イベント毎に会計処理｝	なし　将来的に親睦事業として、シルバー社交ダンスが取り入れたい。	
14	小学校100周年で初代と現在の代表を中心にPTAに呼びかけてコーラスグループを発足	＜代表宅＞資料づくり、会議運営は中心ｽﾀｯﾌで分担｛レッスン料、イベント毎に協賛金・券販売｝	地元企業がイベントを協賛。地域のイベントに参加してまちづくりに貢献したい。	
23	代表が三田市内でお兄さんと絵画二人展を開催したところ、教えて欲しいという人が多く、教室を開く。	＜代表宅＞資料づくり等全て代表。作品展はできる人で準備等手伝う｛レッスン料｝	なし。依頼があれば対応したい。	
2	グループの前身である「三田軽音楽協会」の会員数が減少、三田の文化事業活性化のため見直しをしようと新たに発足。	＜事務局長宅＞資料づくり、会議運営は事務局長を中心にメンバーで分担。｛イベント毎の協賛金・券販売｝	メンバーの中に地縁組織で活躍している人もおり、共同イベントをしたことがある。今後も行いたい。	地域連携サークル型
4	市教育委員会が民話を集め、人形劇等にアレンジしていたことを機に、人形劇を通じて子供達に夢をという思いで発足。	＜代表宅＞資料づくりは代表、会議運営は代表を中心に分担。｛会費、市委託費、公演謝礼｝	幼稚園、小学校、老人会等からの依頼を受ける。	
9	間伐材活用の活動をしたいと、市内で得られた場所に工房を建て、代表宅のある神戸のクラフト仲間に呼びかけて発足	＜代表宅＞会議運営、通信編集は代表、その他の資料づくりはメンバーで分担｛会費、講師料｝	工房がある地元の個人所有の山の管理に入っている。自治会からの要望もあるが手に負えないでいる。	
19	代表は青少年補導員で地域の世代間交流のきっかけにと、ニュータウン開発前にいたホタルを戻す活動をしようと発足	＜事務局長宅＞会計、資料づくりなどは事務局長、会議運営は代表｛カンパのみ｝	川沿いの自治会に川の管理を主体的に行おうと呼びかけ。地元小学校の依頼で観察会実施	
21	地区内で市会議員を出そうと集まったメンバーで何か楽しいこともやろうと、政治活動とは別に発足	＜代表宅＞資料づくりは代表、通信は編集担当、各イベントは担当宅で段取り｛出店収入、イベント参加費｝	自治会役員が流動的なので関係はできにくい老人会に協力して福祉活動に参加。イベントを通じて周辺自治会と交流	
3	市内にアンサンブルがなく、過去に関わったオーケストラメンバーに声をかけてイベント毎に発足。	＜代表宅＞資料づくり、会議運営全て代表｛会費｝	なし	テーマ追求サークル型
15	「高校新設を願う市民の会」が前身で、高校新設が決まり、解散となったが、教育問題以外についても声を上げようと発足	＜なし＞資料づくりは代表、会議運営はメンバー当番制｛会費｝	なし　自治会活動は重要だと考えているが、役員は当番制で古い封建的な体質が残っており、連携しにくい。	
17	キノコの分布を調べていたが、趣味の領域を越えるので、キノコの文化的側面など多面的要素を取り込もうと発足	＜中心メンバー宅＞機関紙発行は編集担当を中心に中心メンバーで分担｛会費、イベント協賛金、講師料｝	なし　観察調査を行っている神社の森があり、その掃除をしている氏子さんからは情報が欲しい。	

表 3　外部要因発足型の活動内容・展望と関連機関との交流

NO	活動内容	活動展望	関連機関との交流
1	老人性痴呆症治療専門の病院と老人保健施設あり。入所者約300人対象に月1回のイベントを中心スタッフで企画、2ヶ月に1回外部を巻き込む。	地域の福祉の発信拠点になりたい。地元との交流を重視し、総合学習などにも協力したい。	中心メンバーのネットワークで外部グループを巻き込むイベントが実現
5	4回／年の作品提供。1回／月の運営委員会。地域ごとにあるブロックによっては交流イベントがある。機関紙を6回／年発行。2回／年の総会	趣味の会ではなく、社会活動という認識。総合学習でもこれまでの経験を生かしたい。	代表が様々なグループに所属しており、グループ間の交流につながる。
10	子供対象のロールプレイとディスカッションのワークショップと、大人対象のワークショップからなるプログラムを依頼を受けて有料で提供	学校の授業としても行いたいので、行政との関わりを持ちたい。趣味の会ではなく社会活動であり、専門家として責任を感じる。	同様のｸﾞﾙｰﾌﾟが全国に約100あり、NPO化をめざしている。他グループの講師依頼を受ける。
11	市企画のコースではなく、ガイド自らの企画でツアーをしようと、「まちかど夢イベント」参加。これが実績となって、年間3～4回の企画を市の依頼で実施。1回／2ヶ月の勉強会、2回／年の交流会。	多彩なメンバーで、自主企画の内容はおもしろい。発展の可能性は大きく、活動の幅を広げたい。　地域資源について体験しながら知ることは重要	代表が様々なグループに所属しており、グループ間の交流につながる。
12	1回／週の例会　全員で様々なことを決め、1回／月で行事実施。皆で作品を持ち寄る展示会を1回／年実施。	活動の幅や仲間を増やしたい。活動支援のボランティアを養成したい。それぞれの能力にあった意思をくみ取ると専門家が必要	事務局長が様々なグループに所属しており、グループ間の交流につながる。
16	市が借り上げた森で間伐や下草刈りなど管理の一部を1回／月で実施。あわせて交流のため植生調査、バードウォッチング等も行う。年間計画はメンバーで企画。	NPO化で人件費を確保できる事業を展開したい。市民に自然環境学習の場を提供したい。定年後の生きがいづくり	代表が同様の活動をするグループと交流。
18	1回／月の子供向け体験型イベントを館と共催で開催。不定期に自然や環境に関わる自主サークル活動、対外事業、3回／年の交流会を実施。1回／2ヶ月連絡誌発行。運営に関わる会議は、1回／2ヶ月の幹事会実施。1回／年の総会	総合学習を支援したい。　遠隔地の会員の地元と関係をつくり事業を拡大したい。	中心メンバーが自主サークル活動を通じて市内外のグループと交流
20	1回／月の例会で情報交換。男女共同参画の社会実現に向けて1～2回／年の公開セミナー開催。不定期に通信発行	住み良いまちにしたいという気持ちは共有。多くの人に女性の不利益について学習して欲しい。	代表を中心に女性センター登録グループと交流
22	1回／年の生ゴミ堆肥化　、2回／月の里山管理、約20カ所の酸性雨調査等実施。2回／年の交流イベント、総会　1回／年、勉強会　2回／年。機関紙　4回／年発行。小学校やPTAの依頼で、子ども対象のクラフト教室実施。	理念を共有することで活動を継続できた。環境にこだわってまちづくりをしたい。独自の基金で里山トラスト運動をしたい。	中心的メンバーが様々なグループに所属しており、グループ間の交流につながる。

表 4　教室型の活動内容・展望と関連機関との交流

NO	活動内容	活動展望	関連機関との交流
6	小学生を中心とした子どもを対象に4クラスで1回／週の練習。1回／年の発表会実施	中心メンバーが楽しんでおり、雰囲気がよく、辞める人がほとんどいない。中学生が増えており、発表の場が必要	将来、他のグループとのダンスイベントを検討したい。
7	各ｸﾞﾙｰﾌﾟが月1回のペースで例会開催。市文化祭をはじめ各種イベントに参加。年に1度、市とタイアップして市民展開催。6年に一度は全国展	常に大きな目標をもって、全体がまとまるように配慮。他地域と比べ、技術レベル高い。	市と共同イベント。人形劇ｸﾞﾙｰﾌﾟと技術交流、同名の吹奏楽ｸﾞﾙｰﾌﾟと共同イベント
8	1回／週の教室。市文化祭をはじめ各種イベントに参加	お茶会の場を季節の花などで飾る舞台づくりも重要	各種グループからお茶会の依頼あり
13	4回／月のレッスン。1～3回／年の初心者入門教室、1～2回／年の交流パーティーを開催	基本技術とマナーを重視し、活動を通じて人との交流を広げたい。高齢者に健康と生きがいづくりとしてすすめたい。	ダンス講師に習う3グループで新たな組織を結成し、共同企画実施
14	1回／週の例会。市内で最も古いコーラスグループ。公民館まつり他各種イベントに参加。10周年から5年ごとに周年リサイタルを開催。	成果を地域に還元したい。　コンクールに参加せず素人の良さを出したい。地域の人達と共に、合唱のまち三田をアピールしたい。	代表が様々なグループに参加し交流。市内の女性コーラスｸﾞﾙｰﾌﾟで共同イベント実施
23	3クラスで2回／月の水彩画教室。1回／年の作品展。	初めての人にも楽しんでもらえるよう心がけている。絵画は子どもの情緒教育によい。	メンバーが様々なグループに所属しており情報交換

①　活動の内容・展望

グループ1,12は「福祉」，グループ16,18,22は「自然環境」，グループ5は「子供の教育」，グループ10は「子供の人権」，グループ11は「地域学習」，グループ20は「女性の地位向上」と，発足のきっかけをつくった関係機関の影響を受けた公共性の高い目的に対応した活動を展開している．展望をみると，いずれも活動の輪を広げることを望んでおり，グループ1は「地域福祉の発信拠点」，グループ5,18は「総合学習支援」，グループ10は「学校教育への参入」，グループ16は「自然環境学習の場の提供」，グループ22は「里山トラスト運動」といった公共性の高い展望を持っている．

②　地縁組織，他関連機関との交流

グループ20以外は，地縁組織との連携をそれぞれの目標達成に不可欠な要素と捉えている．グループ1は「高齢者福祉を地域で支えること」を，グループ18は「ＰＴＡと連携すること」で継続的な総合学習が実現すること

を，グループ22は「交流のはじまりはテーマコミュニティでもローカルコミュニティと連携する重要性」を提案している．その他の関連機関との交流は，代表や中心メンバーが意識的に様々なグループに関わることで交流が生まれている．

（2）教室型

表4に示すように，教室型には6グループが該当する．これらのグループは，いずれのグループも専門講師を中心とした学習を中心としたグループとして発足している．事務局機能は専門講師でもあるグループの代表だけでなく，中心メンバーが分担しているが，その数は少なく，代表の負担は重い傾向にある．通常の資金調達はレッスン料，発表会ではその参加費で賄っており，比較的安定している．活動の内容・展望，地縁組織，他関連機関との交流は以下の通りである．

①　活動の内容・展望

活動の内容は，いずれも文化的活動でグループ6は「子供対象のダンス」，グループ7は「切り絵」，グループ8は「煎茶道」，グループ13は「社交ダンス」，グループ14は「コーラス」，グループ23は「絵画」である．展望をみると，グループ6,8は「メンバーの技術的な向上」をめざしており，グループ7,23は「グループ内のまとまりや交流」を，グループ13,14は「外部との交流や地域への貢献」を重視している．これらの違いは代表や事務局長の意向によるところが大きいと判断できる．

②　地縁組織，他関連機関との交流

地縁組織との関係は，それぞれの技能の発表を通じて交流をしているか，将来的にしたいと考えているようである．グループ23をのぞいたグループでは，「それぞれの技能の発表」という形で他関連機関とも交流している．グループ23は，グループ内での交流がさかんである．

（3）地域連携サークル型

表5に示すように，地域連携サークル型には5グループが該当する．これらのグループは，同志が集まって自発的に発足しており，地縁組織と積極的に関わっている．事務局機能は，いずれも代表を中心に分担しており，教室型に比べて中心スタッフが多い傾向にある．資金調達は，グループ4,9では会費を集めているが，その他は，主催イベントの協賛金や出店時の収入，カンパなどで賄っている．グループ4,9では委託費や講師料などその技能提供の対価を受けている．活動の内容・展望，地縁組織，他関連機関との交流は以下の通りである．

①　活動の内容・展望

活動の内容は，グループ2は音楽を中心とした「文化活動」，グループ4は「人形劇」，グループ21は「スポーツ」，グループ9,19は「里山保全，川の管理」といった自然環境保全活動である．グループ2,4,9,19は，それぞれの分野で専門性が高く，他グループからの支援要請が多い．展望をみると，グループ2は「文化事業を通じた地域貢献」，グループ4は「目や耳の不自由な子供のための人形劇」，グループ9は「間伐材の活用」，グループ19,21は「活動を通じた交流」をめざしている．いずれも公共性を帯びているが，メンバー自身が楽しめると言うことも重視しているという特徴がある．

②　地縁組織，他関連機関との交流

いずれのグループも発足したきっかけで，三田市の文化事業，民話，あるいは特定の場所と関わっていることが地縁組織と積極的に交流する要因になっている．グループ2,4は地域を限定せずに地縁組織と関わっており，グループ9は活動拠点のある地区の「里山管理作業」，グループ19は平谷川沿いの自治会を巻き込んだ「川の管理作業」，グループ21は居住している地区を中心にした「スポーツ交流」という形で地域を限定して地縁組織と交流している．他関連機関との交流は，それぞれの技能を活

表5　地域連携サークル型の活動内容・展望と関連機関との交流

NO	活動内容	活動展望	関連機関との交流
2	音楽を中心としたイベントを不定期に実施。1回／月の幹事会を開き、企画について検討。音響や照明の技術・機材で他イベントを支援	行政にはできない文化事業をしたい。楽しみながら、少し地域に貢献できればよい。	メンバーが様々なグループに所属しており、グループ間の交流につながる。
4	2回／週の練習。公的機関の依頼で年間39の公演。市教育委員会の委託事業で市内の幼稚園、小学校で公演。1回／年の総会	公演したときの子どもの笑顔や感想文が宝物。目や耳の不自由な子どもたちのためにも人形劇をしたい。	1992年から市委託事業を継続実施。県内アマチュアグループの交流会主催。
9	里山工房が活動拠点。6回／月のクラフト教室等里山関連の講習会。市の講師依頼。1回／2ヶ月通信発行。会員はいつでも工房利用可	間伐などで出る小木を遊びの素材として活用したい。多くの人に里山の良さを理解して欲しい。	周辺自治体からクラフト等の講師依頼
19	平谷川はニュータウン内の人工河川で、1回／月の活動日に、水質調査、ホタルの幼虫の餌放流、河原、土手の植栽、川掃除等を行う。	代表は2年後の定年退職後には小鳥や植物の調査等活動を拡大したい。川を中心に住民3世代が交流できる場にしたい。	開発者である公団から川の整備について相談を受ける。
21	ソフトバレーボール、キャンプ、魚釣り、ボーリングを年に1回ずつ開催。地区内を中心に広報。2回／年、不定期で通信発行	イベントを通じて地域の交流ができる。まず地域が良くなることが先決。	他地域のスポーツイベントに参加

表6　テーマ追求サークル型の活動内容・展望と関連機関との交流

NO	活動内容	活動展望	関連機関との交流
3	2回／年のコンサート実施。それにあわせてメンバーを集め7～8回の練習日を設定。場所とり、選曲まで全てを代表が行う。	企画方法などから、他にはないアンサンブルが実現。多くの人に生のアンサンブルを聴いてもらいたい。	交流はあまりないが、他の音楽グループとジョイントを企画したい。
15	1回／2ヶ月、市会議員をいれてテーマを決めて勉強会。それに基づき、今年、支援センター設立の要望書を市に提出。次は教育全般の行政の役割について提案したい。	政治は生活に密着しており、たもので、関心を持つことは重要。議員を巻き込んだ活動は間接民主主義の本筋。	メンバーが様々なグループに所属しており、グループ間の交流につながる。
17	文化活動8割、採集2割。採集は秋以外は1回／月で、秋には1回／週。機関紙を4回／年発行。2000年春からホームページ。活動記録を1回／年発行。市などの講師依頼。1回／年の総会	キノコは最下位に位置する生物で、多様性を学習するよい素材。スポンサーを集め「キノコ文化交流センター」をつくりたい。	事務局長中心にキノコ関連のグループや市内のグループと交流。講師依頼多数。

かしたイベントを通じた交流が主である.

（4）テーマ追求サークル型

表6に示すように，テーマ追求サークル型には３グループが該当する．これらのグループは，同好の志が集まって自発的に発足しており，地縁組織との関わりは特にない．事務局機能は，グループ3は代表が，他は分担して担っている．資金調達は，グループ3,15では会費のみで，グループ17では，会費の他，イベント毎に協賛金を積極的に集めている．活動の内容・展望，地縁組織，他関連機関との交流は以下の通りである.

①　活動の内容・展望

活動の内容は様々で，グループ3は独自企画による「アンサンブル・コンサート」，グループ15は市会議員を巻き込んだ「勉強会」，グループ17はキノコを素材にした「文化活動，採集活動」を行っている．展望も様々で，グループ3は「多くの人に生の演奏を」，グループ15は「政治に関心を持つことの重要性」，グループ17は「キノコ文化交流センター」を望んでいる.

②　地縁組織，他関連機関との交流

地縁組織との関係はなく，今後関わろうという展望も持っていない．他機関との交流はグループ3ではあまりないものの，グループ15はメンバー全員が様々なグループに関わって勉強会そのものが交流になっており，グループ17は事務局長を中心にキノコを通じた交流を行っている.

考　　察

類型毎の調査結果から，住民グループの実態，公的支援のあり方の提案として以下の点をあげることができる.

1. 4つの類型化

三田市の住民グループは，丹波地域の類型化にあてはめると「サークル型」というひとつの型に該当するが，発足のきっかけ，地域との関わりを指標にすることによって，外部要因発足型，教室型，地域連携サークル型，テーマ追求サークル型の４つに類型化することができた（図1).

2. 類型別の特徴と公的支援のあり方

1）外部要因発足型（表3）は，公的機関，他地域の住民グループ等の動機付けによって発足し，それによって，公共性の高い目的をもって活動し，地域との連携も積極的に捉えており，地域づくりへの関わりは深い．住民が地域づくりに関わる活動をはじめるきっかけとなる働きかけという形の支援は重要で，その機関は市役所だけでなく，病院や博物館，他地域の住民グループなど多様であることがわかった．また，支援内容はきっかけづくりや自立に向けた内容であることで，自発的な発足に至り，事務局機能は自立しグループとしての力をつけている．また，地縁組織，他機関と積極的に交流する代表や中心メンバーの存在がさらに地域づくりとの関わりを深めている.

2）教室型（表4）は，それぞれの技能を発表することで地縁組織，他機関との交流をもっている．それらを積極的に行うかどうかは，代表や事務局長というリーダーの意向にかかるところが大きい．いずれも「まちかど夢イベント」には参加しており，地域づくりという認識でないにしろ，グループ外へ目を向けている姿勢がうかがえる．公的支援として，グループに対して発表できる場を提供することは，グループが地域と関わることにつながる可能性があり，有効であると言える.

3）地域連携サークル型（表5）は，三田市や特定の地域にこだわって自発的に発足していることが，地域との連携にこだわる要因になっている．特定の地域にこだわっているグループの活動は，里山管理や川の管理といった従来なら自治会が中心に取り組んでいる活動であり，まさしく地域づくりに直結している．また，専門性が高いこともこれらのグループの特徴で，地縁組織側にとっても地域の活性化を考える上で重要なパートナーといえる．これらのグループが地域に貢献したいという意

向からすると，公的な支援としては，グループと地縁組織が地域づくりに関わるノウハウや、地域の課題について情報交換できる場の提供を行うことが望まれる．

4）テーマ追求サークル型（表6）は，活動内容に公共性を帯びているものの，地縁組織との関係に消極的でテーマを追求することが重視されており，現時点で地域づくりに関わる要因は見あたらない．

住民グループが地域に関わる要因として，外部要因発足型にみられた公的機関，他地域の住民グループによる動機付けやリーダーの積極的な外部との交流，教室型におけるリーダーの先導性，地域連携サークル型にみられた地域性にこだわった発足，メンバーの専門性といったことがあげられた．公的支援内容として，特に，外部要因発足型にみられた発足の動機付けや自立に向けた支援は有効であることがわかった．また，それぞれのグループは資金的にもある程度自立し，主体性のある活動であるため，公的には後方支援に徹し，それぞれの活動を広く知らしめることや地縁組織との交流の場をつくるといったことが，グループの自立を促進し，地域づくりにつながるものといえる．その点で「まちかど夢イベント」はそのような環境づくりの一助になったものといえる．

農村部で自治会が地域づくりの担い手といえる丹波地域では，自治会と直結する住民グループが見いだされ，直接，公的支援対象とする必要性が明らかになったが，人口の半数がニュータウン住民で，必ずしも自治会が地域づくりの担い手と言い難い，三田市のような地域では，活発な動きのあるグループに自治会と直結したグループはなく，公的支援としては，グループ発足の動機付けや自立支援，広報，地縁組織との交流の場づくりなど，後方支援することが重要で，丹波地域とは異なる特徴といえる．

謝　　辞

本研究にあたって，三田市内で活動する多くの住民グループのみなさんに，長時間にわたるヒアリング調査にご協力頂きました．深く感謝申し上げます．

文　　献

藤本真里・中瀬　勲（2000）兵庫県丹波地域における住民グループ活動の実態把握に関する一考察．ランドスケープ研究，**63**(5)，709-714

平田　実（1993）地域共同管理の社会学．東信堂，東京，193p.

越智　昇（1990）ボランタリー・アソシエーションと町内会の分化変容．町内会と地域集団，ミネルヴァ書房，京都，277p.

奥田道大（1993）都市型社会のコミュニティ．勁草書房，東京，165p.

(2001年７月９日受付)
(2001年10月18日受理)